



(様式第 10)

31 昭 大 病 発 第 17 号
令和 元 年 9 月 30 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 昭 和 大
理事長 小 口 勝

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒142-8555 東京都品川区旗の台一丁目5番8号
氏 名	学校法人 昭和大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

昭和大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台一丁目5番8号 電話 (03) 3784-8000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科	
⑤神経内科 ⑥血液内科 ⑦内分泌内科 ⑧代謝内科	
⑨感染症内科 ⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

①リハビリテーション科 ②性病科 ③臨床検査科 ④病理診断科 ⑤歯科口腔外科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	815床	815床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	632人	120.0人	752人	看 護 補 助 者	9人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	6人	人	6人	理 学 療 法 士	13人	臨床検査技師	52人
薬 剤 師	69人	1.2人	70.2人	作 業 療 法 士	7人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	人	そ の 他	人
助 産 師	55人	人	55人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	910人	3.6人	913.6人	臨 床 工 学 士	22人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	2人	人	2人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	95人
管理栄養士	5人	人	5人	診 療 放 射 線 技 師	54人	そ の 他 の 職 員	20人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	49人	眼 科 専 門 医	1人
外 科 専 門 医	37人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	16人
精 神 科 専 門 医	2人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	22人	脳 神 経 外 科 専 門 医	15人
皮 膚 科 専 門 医	5人	整 形 外 科 専 門 医	27人
泌 尿 器 科 専 門 医	10人	麻 酔 科 専 門 医	26人
産 婦 人 科 専 門 医	23人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	255人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (板橋 家頭夫) 任命年月日 平成 28 年 4 月 1 日

平成 20 年 4 月 1 日～現在 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	611人	0人	611人
1日当たり平均外来患者数	1,604人	10人	1,614人
1日当たり平均調剤数			5,451剤
必要医師数			156.6人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			68.1人
必要(准)看護師数			359人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要	
集中治療室	579.4m ²	鉄筋コンクリート	病床数	ICU 12床 CCU 5床 救急ICU 15床 救急CCU 5床	心電計 (有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置 (有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 163.54m ² [移動式の場合] 台数 6台			病床数 6床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.92m ² [共用室の場合] 共用する室名				
化学検査室	321.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学検査装置 (BM6010)		
細菌検査室	103.6m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置 (BACTEC FX)		
病理検査室	91.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		
病理解剖室	97.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、冷蔵庫、 光触媒環境浄化装置 (ssc-75hi-Y)		
研究室	20243.31m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)		
講義室	5339.77m ²	鉄筋コンクリート	室数 16室	収容定員 2,593人	
図書室	1525m ²	鉄筋コンクリート	室数 1室	蔵書数 350,000冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	86.4%	逆紹介率	54.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,912人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,774人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,199人
	D: 初診の患者の数		29,070人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理または法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院 病院長		医療に関する学識経験者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 病院のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	47
2	筋萎縮性側索硬化症	8	57	特発性拡張型心筋症	11
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	13
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	2	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	40	61	自己免疫性溶血性貧血	8
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5
8	ハンテントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	66
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	5
10	シャルコー・マリー・トウース病		65	原発性免疫不全症候群	9
11	重症筋無力症	18	66	IgA腎症	15
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	12
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	25	68	黄色靭帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	4	69	後縦靭帯骨化症	18
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	19
17	多系統萎縮症	5	72	下垂体性ADH分泌異常症	2
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	11	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	8
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	3
29	ウルリツヒ病		84	サルコイドーシス	29
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	7
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	8
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	2	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症	
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	37
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	41
41	巨細胞性動脈炎	15	96	クローン病	77
42	結節性多発動脈炎	24	97	潰瘍性大腸炎	214
43	顕微鏡的多発血管炎	49	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	42	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	1	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	279	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	97	105	チャージ症候群	2
51	全身性強皮症	17	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	32	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	108	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	23	109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカーstaff脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メヒウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	5
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	8

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	5	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	259
212	三尖弁閉鎖症	3	シトステロール血症	260
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3	タンジール病	261
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	9	原発性高カイロミクロン血症	262
215	ファロー四徴症	21	脳腫黄色腫症	263
216	両大血管右室起始症	8	無βリポタンパク血症	264
217	エプスタイン病	2	脂肪萎縮症	265
218	アルポート症候群	1	家族性地中海熱	266
219	ギャロウェイ・モフト症候群		高IgD症候群	267
220	急速進行性糸球体腎炎	10	中條・西村症候群	268
221	抗糸球体基底膜腎炎		化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	269
222	一次性ネフローゼ症候群	75	慢性再発性多発性骨髄炎	270
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		強直性脊椎炎	271
224	紫斑病性腎炎	2	進行性骨化性線維異形成症	272
225	先天性腎性尿崩症		肋骨異常を伴う先天性側弯症	273
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	骨形成不全症	274
227	オスラー病	1	タナトフォリック骨異形成症	275
228	閉塞性細気管支炎	1	軟骨無形成症	276
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		リンパ管腫症/ゴーハム病	277
230	肺胞低換気症候群	1	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	278
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	279
232	カーニー複合		巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	280
233	ウォルフラム症候群		クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	281
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		先天性赤血球形成異常性貧血	282
235	副甲状腺機能低下症		後天性赤芽球癆	283
236	偽性副甲状腺機能低下症		ダイヤモンド・ブラックファン貧血	284
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		ファンコニ貧血	285
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		遺伝性鉄芽球性貧血	286
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		エプスタイン症候群	287
240	フェニルケトン尿症		自己免疫性出血病XIII	288
241	高チロシン血症1型		クロンカイト・カナダ症候群	289
242	高チロシン血症2型		非特異性多発性小腸潰瘍症	290
243	高チロシン血症3型		ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	291
244	メーブルシロップ尿症		総排泄腔外反症	292
245	プロピオン酸血症		総排泄腔遺残	293
246	メチルマロン酸血症		先天性横隔膜ヘルニア	294
247	イソ吉草酸血症		乳幼児肝巨大血管腫	295
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	胆道閉鎖症	296
249	グルタル酸血症1型		アラジール症候群	297
250	グルタル酸血症2型		遺伝性膀胱炎	298
251	尿素サイクル異常症	1	嚢胞性線維症	299
252	リジン尿性蛋白不耐症		IgG4関連疾患	300
253	先天性葉酸吸収不全		黄斑ジストロフィー	301
254	ポルフィリン症		レーベル遺伝性視神経症	302
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		アッシュャー症候群	303
256	筋型糖原病		若年発症型両側性感音難聴	304
257	肝型糖原病		遅発性内リンパ水腫	305
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		好酸球性副鼻腔炎	306

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心キャッスルマン病	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

基本診療科に係る施設基準

2の7: 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準

4: 歯科外来診療環境体制加算

5: 特定機能病院入院基本料(7対1)

3: 超急性期脳卒中加算

4: 診療録管理体制加算2

4の2: 医師事務作業補助体制加算(25対1)

4の3: 急性期看護補助体制加算(25対1)

4の4: 看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)

9: 療養環境加算

10: 重症者等療養環境特別加算

12の3: 無菌治療室管理加算1・2

14: 緩和ケア診療加算

19: 栄養サポートチーム加算

20: 医療安全対策加算1

21: 感染防止対策加算1

21: 抗菌薬適正使用支援加算

21の2: 患者サポート体制充実加算

22: 褥瘡ハイリスク患者ケア加算

22の2: ハイリスク妊娠管理加算

23: ハイリスク分娩管理加算

26: 呼吸ケアチーム加算

26の2: 後発医薬品使用体制加算

26の3: 病棟薬剤業務実施加算1・2

26の4: データ提出加算2

26の5: 入退院支援加算1

第1: 救命救急入院料1

2: 特定集中治療室管理料3(小児加算)

3: ハイケアユニット入院医療管理料

6: 総合周産期特定集中治療室管理料1・2

7: 新生児治療回復室入院医療管理料

10: 小児入院医療管理料1

特掲診療科に係る施設基準

1の2:ウイルス疾患指導料
4の2:がん性疼痛緩和指導管理料
4の3:がん患者指導管理料1・2・3
4の4:外来緩和ケア管理料
4の5:移植後患者指導管理料（臓器移植後）（造血幹細胞移植後）
4の8:乳腺炎重症化予防ケア・指導料
6:地域連携小児夜間・休日診療料2
6の3:地域連携夜間・休日診療料
6の4:院内トリアージ実施料
6の7:外来放射線照射診療料
7:ニコチン依存症管理料
7の2:療養・就労両立支援指導料
11の2:がん治療連携計画策定料
11の3の4:ハイリスク妊産婦連携指導料1
11の5:肝炎インターフェロン治療計画料
12:薬剤管理指導料
12の2:医療機器安全管理料1
12の2:医療機器安全管理料2
13:総合医療管理加算（歯科疾患管理料）
13:歯科治療時医療管理料
16の9:在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
16の11:持続血糖測定器加算
18の1の2:遺伝学的検査
18の1の3:骨髄微小残存病変測定
18の1の5:抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
18の2:HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
19:検体検査管理加算（Ⅰ）
19の2:検体検査管理加算（Ⅱ）
21:遺伝カウンセリング加算
22:心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
22の3:時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
22の4:胎児心エコー法
22の5:ヘッドアップティルト試験
26の1の2:脳波検査判断料1
26の2:神経学的検査
27:補聴器適合検査
29:小児食物アレルギー負荷検査
29の2:内服・点滴誘発試験
29の3:センチネルリンパ節生検（片側）
30:画像診断管理加算1
30:画像診断管理加算2
30:画像診断管理加算3
32:遠隔画像診断
34:CT撮影及びMRI撮影
35:冠動脈CT撮影加算
35の2:外傷全身CT加算
36:心臓MRI撮影加算
36の1の2:乳房MRI撮影加算
36の1の4:頭部MRI撮影加算
36の2:抗悪性腫瘍剤処方管理加算
37:外来化学療法加算1
37の2:無菌製剤処理料
38:心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
40の2:脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
42:運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
44:呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
47の2:がん患者リハビリテーション料
47の5:歯科口腔リハビリテーション料2
57:イタールの局所注入（甲状腺に対するもの）
57:イタールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
57の2:人工腎臓
57の2:導入期加算2
57の2:透析液水質確保加算
57の2:慢性維持透析濾過加算
57の2の2:下肢末梢動脈疾患指導管理加算
57の6:CAD/CAM冠
57の8:皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
57の9:組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
57の10:骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
60:脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
60の2:仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
61:人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
61の2:内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
61の4の4:乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（MRIによるもの）

61の5:	乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
61の5:	乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
61の6:	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
62の2の2:	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
62の2の4:	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
63:	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
63の3:	経カテーテル大動脈弁置換術
63の6:	磁気ナビゲーション加算
64:	経皮的中心隔心筋焼灼術
65:	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
65:	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
66:	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
67:	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
67の2:	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
68:	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
72の4:	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
72の5:	腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
72の7:	腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
72の8の2:	バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
72の9:	胆管悪性腫瘍手術（臍頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
73:	体外衝撃波胆石破碎術
73の2:	腹腔鏡下肝切除術
74:	生体部分肝移植術
75の2:	体外衝撃波膵石破碎術
75の3:	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
76の4:	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
76の5:	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
77:	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
77の2:	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
77の3:	腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
77の3の2:	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
77の4:	同種死体腎移植術
77の5:	生体腎移植術
77の6:	腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
77の7:	膀胱水圧拡張術
77の8:	腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
77の11:	人工尿道括約筋植込・置換術
78の2:	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
78の2の2:	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
78の2の3:	腹腔鏡下仙骨腫固定術
78の3:	腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
78の3の2:	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
78の3の2:	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
78の3の2:	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
78の5:	胎児胸腔・羊水腔シャント術
79の3:	胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
80:	輸血管理料Ⅰ
80:	輸血適正使用加算
80の3の2:	自己クリオプレシペート作製術（用手法）
80の4:	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
80の5:	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
81:	麻酔管理料（Ⅰ）
81の2:	麻酔管理料（Ⅱ）
82:	放射線治療専任加算
82の2:	外来放射線治療加算
83:	高エネルギー放射線治療
83の2:	1回線量増加加算
83の3:	強度変調放射線治療（IMRT）
83の4:	画像誘導放射線治療加算（IGRT）
83の5:	体外照射呼吸性移動対策加算
84:	定位放射線治療
84の2:	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
84の2の5:	画像誘導密封小線源治療加算
84の3:	保険医療機関間の連携による病理診断
84の7:	病理診断管理加算2
84の8:	悪性腫瘍病理組織標本加算
85:	クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
脳脊髄液減少症の非典型例の診断・治療法開拓に関する研究	有賀 徹	救急・災害医学	10,000	補	委
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療学	300,000	補	委
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	伊藤 芳紀	放射線治療学	200,000	補	委
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療学	750,000	補	委
Aβ及びαシヌグレイン試験管内凝集モデルを用いた食品関連因子の作用機序の解析	小野 賢二郎	脳神経内科学	600,000	補	委
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	加藤 光広	小児科学	1,000,000	補	委
ゲノム編集技術を用いた希少難治性神経発達障害の原因遺伝子変異ノックインマウスモデルの確立およびその解析による病態解明と新規治療薬探索	加藤 光広	小児科学	1,000,000	補	委
AADC欠損症等の小児神経疾患に対する遺伝子治療法開発	加藤 光広	小児科学	1,695,653	補	委
限局性皮質異常形成II型のでんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検医師主導治験	加藤 光広	小児科学	31,976,087	補	委
糖尿病合併冠動脈疾患レジストリを基盤としたコルヒチン第3相試験的試験の実施とRCT On Registryに向けたレジストリデータの品質管理と標準化に関する研究	木庭 新治	循環器内科学	1,090,910	補	委
慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	木庭 新治	循環器内科学	240,000	補	委
診療連携・国際連携をも視野にいれた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	柴田 孝則	腎臓内科学	50,000	補	委
新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究	末木 博彦	皮膚科学	650,000	補	委
NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築	中村 清吾	乳腺外科学	2,923,077	補	委
磁気ナノ粒子によるセンチネルリンパ節の特定とがん転移の迅速診断法の開発	中村 清吾	乳腺外科学	8,123,440	補	委
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援	草野 太郎	形成外科学	979,040	補	委
ゲノム情報を活用した遺伝性乳癌卵巣癌診療の標準化と先制医療実装にむけたエビデンス構築に関する研究	中村 清吾	乳腺外科学	1,200,000	補	委
思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究	磯山 恵一	小児科学	200,000	補	委
HTLV-1母子感染予防に関するエビデンス創出のための研究	板橋 家頭夫	小児科学	6,168,000	補	委
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	700,000	補	委
安全で効果的な質の高い放射線治療の実施体制確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	200,000	補	委
アミロイドーシスに関する調査研究	小野 賢二郎	脳神経内科学	200,000	補	委
運動症状を主症状とする小児期発症希少難治性神経疾患研究	加藤 光広	小児科学	1,000,000	補	委
稀少てんかんに関する調査研究	加藤 光広	小児科学	300,000	補	委
先天異常症候群領域の指定難病等のQOLの向上を目指す包括的研究	加藤 光広	小児科学	800,000	補	委

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
重症多型滲出性紅斑に関する調査研究	末木 博彦	皮膚科学	1,000,000	補委 厚生労働省
小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究	土岐 彰	小児外科学	100,000	補委 厚生労働省
NICUの新人看護師を対象とした教育支援プログラムの開発	井出由美	看護学科	1,000,000	補委 文部科学省
看護師の倫理的行動を促進する教育・支援プログラム開発のアクションリサーチ	福宮 智子	看護学科	500,000	補委 文部科学省
新規HDL機能評価法を用いた糖代謝異常患者に対する急性冠症候群発症阻止の戦略	新家 俊郎	循環器内科学	700,000	補委 文部科学省
低頻度モザイク変異検出技術を用いた生殖細胞モザイク変異の推定診断法開発	加藤 光広	小児科学	1,500,000	補委 文部科学省
早産低出生体重児における脂肪細胞の数と大きさの変化が将来の疾病リスクに与える影響	中野 有也	小児科学	700,000	補委 文部科学省
脊椎固定術における椎弓根スクリューのトルクと椎体骨密度の質的評価	豊根 知明	整形外科	700,000	補委 文部科学省
病的習慣化の神経基盤; 正常な習慣と依存症や強迫性障害はどのように異なるのか	戸田 重誠	精神医学	1,100,000	補委 文部科学省
オキシトシンを標的とした抑うつ状態合併関節リウマチのあらたな治療戦略の構築	三輪 裕介	リウマチ・膠原病内科学	1,200,000	補委 文部科学省
電子診療情報と患者報告アウトカムを活用したSLE診療の質の評価システム開発と検証	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科学	1,100,000	補委 文部科学省
「主体性」が在宅障害者の生活を改善させる ―主体性段階評価と主体性促す対応―	和田 真一	リハビリテーション医学	900,000	補委 文部科学省
急性期脳卒中高次脳機能障害に対する音楽リハビリテーションの開発と有効性の検証	笠井 史人	リハビリテーション医学	200,000	補委 文部科学省
デイクアでの心臓リハビリテーション地域で高齢心不全を元気にする―	諸富 伸夫	リハビリテーション医学	900,000	補委 文部科学省
生後のIGF-1投与が未熟児網膜症に与える影響の基礎研究	齋藤 雄太	眼科学	1,100,000	補委 文部科学省
発展途上国での海外医療援助による口唇口蓋裂術後患者の社会適応	吉本 信也	形成外科学	200,000	補委 文部科学省
慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者への多職種による集団指導の効果	大西 司	呼吸器・アレルギー内科学	500,000	補委 文部科学省
上皮成長因子受容体ErbB2経路のリガンドを用いたアレルギー性喘息の治療法の開発	井上 英樹	呼吸器・アレルギー内科学	800,000	補委 文部科学省
フレイル合併COPD患者における多職種医療チームによる非薬物的介入の検討	本間 哲也	呼吸器・アレルギー内科学	100,000	補委 文部科学省
不育症における子宮内フローラの影響の解明とプロバイオティクスを用いた治療法の開発	近藤 哲郎	産婦人科学	600,000	補委 文部科学省
絨毛検査で採取した初期絨毛の遺伝子解析を通じた妊娠高血圧症候群の病態解明	関沢 明彦	産婦人科学	1,100,000	補委 文部科学省
胎児発育不全の原因としての胎盤性モザイクのインパクトについての検討	宮上 景子	産婦人科学	900,000	補委 文部科学省
胎盤特異的DNAメチル化からみた母体血による癒着胎盤・胎盤機能異常の評価法の開発	小出 馨子	産婦人科学	900,000	補委 文部科学省
子宮頸癌の診断・治療における指標としてのHPV型の確立と型別病態メカニズムの解明	松本 光司	産婦人科学	1,200,000	補委 文部科学省
先天性中枢神経障害に対する母親の脂肪組織由来幹細胞を用いた胎児細胞移植療法法の検討	川嶋 章弘	産婦人科学	1,600,000	補委 文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
PIBFと胎児発育不全の関連性に関する研究	大場 智洋	産婦人科学	2,100,000	補委 文部科学省
ヒト鼻粘膜上皮細胞よりのペリオスチン産生とその影響	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科学	1,600,000	補委 文部科学省
食道癌および胃癌の腸内細菌叢から解析した患者免疫能における探索的基礎研究	角田 卓也	腫瘍内科学	1,100,000	補委 文部科学省
バゾバニブの毒性と体内曝露量に関する臨床研究	石田 博雄	腫瘍内科学	1,000,000	補委 文部科学省
心臓リハビリテーションによるHDL垂分画の変化及び冠動脈イベント回避への影響	横田 裕哉	循環器内科学	600,000	補委 文部科学省
心臓リハビリテーションの炎症性サイトカインを介した有用性の解明	正司 真	循環器内科学	900,000	補委 文部科学省
鶏卵経口免疫療法におけるビフィズス菌摂取介入効果に関する無作為二重盲検比較試験	今井 孝成	小児科学	1,100,000	補委 文部科学省
ポドサイトのミトコンドリア機能を標的としたネフローゼ症候群の新規治療戦略の構築	阿部 祥英	小児科学	1,300,000	補委 文部科学省
超早産児に対する早期強化母乳栄養の効果に関する検討	板橋 家頭夫	小児科学	1,300,000	補委 文部科学省
フォロー四徴症術後患者の経皮的肺動脈弁置換術早期導入に向けた適応判定法の構築	藤井 隆成	小児循環器内科学	1,000,000	補委 文部科学省
血液線維素溶解系因子による虚血再灌流障害の制御機構の解明と臨床応用に向けて	田代 良彦	消化器・一般外科学	1,200,000	補委 文部科学省
腎不全病態下におけるvascular healthとビタミンD	溝渕 正英	腎臓内科学	900,000	補委 文部科学省
抗RANKLモノクローナル抗体投与後の低Ca血症の検討—新規予測因子の開拓—	石川 紘司	整形外科	500,000	補委 文部科学省
損傷脊髄における移植間葉系骨髄幹細胞のホーミングと運動療法との併用効果の検討	平泉 裕	整形外科	1,200,000	補委 文部科学省
ヒトiPS細胞由来間葉系幹細胞を用いた骨再生療法の確立	李 相亮	整形外科	1,600,000	補委 文部科学省
摂食抑制ペプチドのネスファチンの動脈保護薬としての可能性	森 雄作	整形外科	1,200,000	補委 文部科学省
若年発症乳癌のサーベイランス法としての造影マンモグラフィの確立	井手 佳美	乳腺外科学	1,500,000	補委 文部科学省
乳腺濃度別に乳房検査を選択する新しい乳癌検診のための臨床研究	沢田 晃暢	乳腺外科学	1,400,000	補委 文部科学省
ガンマ脳波規則性の定量化によるてんかん病変検出のための新規バイオマーカーの開発	佐藤 洋輔	脳神経外科学	2,300,000	補委 文部科学省
重症薬疹における薬物とHLAの結合様式の解析および重症薬疹治療薬の開発	渡辺 秀晃	皮膚科学	1,300,000	補委 文部科学省
自己調節鎮痛法を用いた術後疼痛管理の予後因子の探索研究	米澤 龍	病院薬剤学	2,400,000	補委 文部科学省
呼吸プロポフォール連続測定のための臨床使用のための基盤研究	増井 健一	麻酔科学	2,200,000	補委 文部科学省
院内感染対策を目的とする薬剤耐性菌の抗菌薬耐性機構の解析	福地邦彦	臨床病理診断科学	700,000	補委 文部科学省
がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムの開発	梅田 恵	看護学科 (がん看護外来)	150,000	補委 文部科学省
MPS法によるNIPTにおけるdiscordantな結果の解明とその臨床的意義	関沢 明彦	産婦人科学	100,000	補委 文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	別紙参照				Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 133 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kuwahara N, Homma T, Sagara H et al.	呼吸器・アレルギー内科	Yellow nail syndrome with complete triad.	Neth J Med. 2019 Feb;77(2):86.	Original article
2	Hirai Kuniaki, Homma Tetsuya, Yamaguchi Fumihiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis induced by pertussis: the first case report.	BMC Pulm Med. 2019 Jan 14;19(1):15. (オンライン)	Case report
3	Kuniaki Hirai, Akihiko Tanaka, Tetsuya Homma et al.	呼吸器・アレルギー内科	Improvement in Frailty in a Patient With Severe Chronic Obstructive Pulmonary Disease After Ninjin'yoeito Therapy: A Case Report.	Front Nutr. 2018 Sep 4;5:71. (オンライン)	Case report
4	Fukuda Yosuke, Homma Tetsuya, Suzuki Shintaro et al.	呼吸器・アレルギー内科	High burden of Aspergillus fumigatus infection among chronic respiratory diseases.	Chron Respir Dis. 2018 Aug;15(3):279-285.	Original article
5	Manabe Ryo, Ando Koichi, Kusumoto Sojiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Alectinib Versus Crizotinib for Previously Untreated Alk-positive Advanced Non-small Cell Lung Cancer: A Meta-Analysis.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):309-315.	Original article
6	Ando Koichi, Tanaka Akihiko, Ohnishi Tsukasa et al.	呼吸器・アレルギー内科	Effectiveness of Therapeutic Monoclonal Antibodies for Asthma Control in Uncontrolled Eosinophilic Asthma: A Meta-analysis of Randomized Controlled Trials.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):297-307.	Original article
7	Ando Koichi, Tanaka Akihiko, Mikuni Hatsuko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Indirect Comparison of Dupilumab and Mepolizumab Treatments for Uncontrolled Eosinophilic Asthma: Bayesian Analysis of Randomized Controlled Trials.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):189-196.	Original article
8	Ando Koichi, Tanaka Akihiko, Kusumoto Sojiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy and Safety of Long-acting Beta-2 Agonist and Long-acting Muscarinic Antagonist Combinations in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Meta-analysis of Phase 3 Randomized	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):159-174.	Original article
9	Kuwahara Naota, Yamaguchi Munehiro, Tanaka Akihiko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Inhibitory Effects of Chlorella Extract on Airway Hyperresponsiveness and Airway Remodeling in a Murine Model of Asthma.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2019 Mar;31(1):1-12.	Original article
10	Saito Mayu, Isojima Sakiko, Miura Yoko et al.	リウマチ・膠原病内科	Polymyositis-Dermatomyositis and Interstitial Lung Disease in Pregnant Woman Successfully Treated with Cyclosporine and Tapered Steroid Therapy.	Case Rep Rheumatol. 2019 Mar 11;2019:4914631. (オンライン)	Case report
11	Nishimi Shinichiro, Isozaki Takeo, Wakabayashi Kuninobu et al.	リウマチ・膠原病内科	A Disintegrin and Metalloprotease 15 is Expressed on Rheumatoid Arthritis Synovial Tissue Endothelial Cells and may Mediate Angiogenesis.	Cells. 2019 Jan 9;8(1). pii: cells8010032. (オンライン)	Original article
12	Miwa Yusuke, Ikari Yuzo, Hosonuma Masahiro et al.	リウマチ・膠原病内科	A study on characteristics of rheumatoid arthritis patients achieving remission in depression with 6 months of bDMARDs treatment.	Eur J Rheumatol. 2018 Jul;5(2):111-114.	Original article
13	Ishii Sho, Isozaki Takeo, Furuya Hidekazu et al.	リウマチ・膠原病内科	ADAM-17 is expressed on rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes and regulates proinflammatory mediator expression and ADAM-17 is expressed in the inflammatory myopathy and is involved with interstitial lung disease.	Arthritis Res Ther. 2018 Aug 2;20(1):159. Clin Rheumatol. 2018 Apr;37(4):1017-1024.	Original article
14	Nishimi Airo, Isozaki Takeo, Nishimi Shinichiro	リウマチ・膠原病内科			Original article
15	Yashima Hironori, Terasaki Michishige, Kushima Hideki et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Emphysematous cystitis in an elderly Japanese patient with type 2 diabetes mellitus.	Clin Case Rep. 2019 Feb 6;7(3):585-586. (オンライン)	Original article
16	Hironori Yashima, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	A Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Suppresses Macrophage Foam Cell Formation in Diabetic db/db Mice and Type 2 Diabetes Patients.	Int J Endocrinol. 2018 Dec 9;2018:8458304. (オンライン)	Original article
17	Nagaïke Hiroe, Ohara Makoto, Kohata Yo et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Effect of Dulaglutide Versus Liraglutide on Glucose Variability, Oxidative Stress, and Endothelial Function in Type 2 Diabetes: A	Diabetes Ther. 2019 Feb;10(1):215-228.	Original article
18	Tomoyasu Masako, Mori Yusaku, Fukase Ayako et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Pheochromocytoma presenting with severe hyperglycemia and metabolic acidosis following intra-articular glucocorticoid	J Med Case Rep. 2019 Jan 5;13(1):3. (オンライン)	Case report
19	Hirano Tsumoto	糖尿病・代謝・内分泌内科	Pathophysiology of Diabetic Dyslipidemia.	J Atheroscler Thromb. 2018 Sep 1;25(9):771-782.	Review
20	Mori Yusaku, Kushima Hideki, Koshibu Masakazu et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide Suppresses Peripheral Arterial Remodeling in Male Mice.	Endocrinology. 2018 Jul 1;159(7):2717-2732.	Original article
21	Mori Yusaku, Ko Eunhyoung, Furrer Rudolf	糖尿病・代謝・内分泌内科	Effects of insulin and analogues on carcinogen-induced mammary tumours in high-fat-fed rats.	Endocr Connect. 2018 May;7(5):739-748.	Original article
22	Yamamoto Saki, Hayashi Toshiyuki, Ohara Makoto et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Comparison of liraglutide plus basal insulin and basal-bolus insulin therapy (BBIT) for glycemic control, body weight stability, and treatment satisfaction in patients treated using BBIT for type 2 diabetes without severe insulin deficiency: A randomized prospective	Diabetes Res Clin Pract. 2018 Jun;140:339-346.	Original article
23	Ohara Makoto, Nagaïke Hiroe, Goto Satoshi et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Improvements of ambient hyperglycemia and glycemic variability are associated with reduction in oxidative stress for patients with type 2 diabetes.	Diabetes Res Clin Pract. 2018 May;139:253-261.	Original article
24	Tomoyasu, Hayashi Toshiyuki et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Analysis of pancreatic volume in acute-onset, slowly-progressive and fulminant type 1 diabetes in a Japanese population.	J Diabetes Investig. 2018 Sep;9(5):1091-1099.	Original article
25	Fukui Tomoyasu, Hayashi Toshiyuki, Yamamoto Takeshi et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Efficacy and Safety with Insulin Degludec Compared with Insulin Glargine or Detemir in Patients with Japanese Type 1 Diabetes and Type 2 Diabetes on Basal-Bolus Insulin Therapy: A 24-Week, Exploratory Study: Degludec vs. conventional basal insulin.	日本先進糖尿病治療研究会雑誌. 2018 Nov;14:1-9.	Original article
26	Kitamura Katsuya, Yamamiya Akira, Ishii Yu et al.	消化器内科	Clinical outcomes of endoscopic ultrasonography-guided transmural drainage using plastic stent and nasocystic drain for pancreatic and peripancreatic collections.	Hepatobiliary Pancreat Dis Int. 2019 Feb;18(1):96-99.	Letter
27	Arai Jun, Goto Kaku, Tanoue Yasushi et al.	消化器内科	Enzymatic inhibition of MICA sheddase ADAM17 by lomofungin in hepatocellular carcinoma cells.	Int J Cancer. 2018 Nov 15;143(10):2575-2583.	Original article
28	Arai Jun, Goto Kaku, Stephanou Anthony et al.	消化器内科	Predominance of regorafenib over sorafenib: Restoration of membrane-bound MICA in hepatocellular carcinoma cells.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 May;33(5):1075-1081.	Original article
29	Mitsui Yuta, Honma Tadashi, Sato Yoshiki et al.	消化器内科	Therapeutic Effect of an Immunomodulator on Pancreatic Endocrine Secretion Disorder and Insulinitis in an Animal Model of Autoimmune Pancreatitis.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):197-210.	Original article
30	Koba Shinji	循環器内科	Physical Fitness and Development of High Non-High-Density Lipoprotein Cholesterol.	J Atheroscler Thromb. 2018 Dec 1;25(12):1185-1187.	Original article
31	Ito Hiroyuki, Badhwar Nitish, Patel Akash R et al.	循環器内科	Use of Programmed Ventricular Extrastimulus During Supraventricular Tachycardia to Differentiate Atrioventricular Nodal Re-Entrant Tachycardia From Atrioventricular Re-Entrant Tachycardia.	JACC Clin Electrophysiol. 2018 Jul;4(7):872-880.	Original article
32	Kosaki Ryota, Minoura Yoshino, Ogura Kunihiro et al.	循環器内科	Thrombomodulin can predict the incidence of second events in patients with acute coronary syndrome: Single-center, retrospective cohort study.	J Cardiol. 2018 Dec;72(6):494-500.	Original article
33	Minoura Yoshino, Onimaru Hiroshi, Iigaya Kamon et al.	循環器内科	Modulation of sympathetic preganglionic neuron activity via adrenergic receptors.	Hypertens Res. 2018 Jul;41(7):499-505.	Original article
34	Sakai Koshiro, Koba Shinji, Nakamura Yuya et al.	循環器内科	Small dense low-density lipoprotein cholesterol is a promising biomarker for secondary prevention in older men with stable coronary	Geriatr Gerontol Int. 2018 Jun;18(6):965-972.	Original article
35	Nakamura Yuya, Kawamura Mitsuharu, Yoshikawa Kosuke et al.	循環器内科	Head-up Tilt Test May Be Useful for Determining Permission of Flight for Regular Passenger Aircraft Pilots with Vasovagal Syncope.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Dec;30(4):459-466.	Original article
36	Akizawa Tadao, Nangaku Masaomi, Yamaguchi Takuhiro et al.	腎臓内科	A Placebo-Controlled, Randomized Trial of Enarodustat in Patients with Chronic Kidney Disease Followed by Long-Term Trial.	Am J Nephrol. 2019 Feb;49(2):165-174.	Original article
37	Akizawa Tadao, Shimazaki Ryutarō, Shiramoto Masanari et al.	腎臓内科	Response to Comments on "Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, and Safety of the Novel Calcimimetic Agent Evocalcet in Healthy Japanese Subjects: First-in-Human Phase I Study".	Clin Drug Investig. 2019 Jan;39(1):109-111.	Letter
38	Wada Yukihiko, Matsumoto Kei, Suzuki Taihei et al.	腎臓内科	Clinical significance of serum and mesangial galactose-deficient IgA1 in patients with IgA nephropathy.	PLoS One. 2018 Nov 2;13(11):e0206865. (オンライン)	Original article
39	Akizawa Tadao, Shimazaki Ryutarō, Fukagawa Masafumi et al.	腎臓内科	Phase 2b study of evocalcet (KHK7580), a novel calcimimetic, in Japanese patients with secondary hyperparathyroidism undergoing hemodialysis: A randomized, double-blind, placebo-controlled, dose-Pharmacokinetics, Pharmacodynamics, and Safety of the Novel	PLoS One. 2018 Oct 31;13(10):e0204896. (オンライン)	Original article
40	Akizawa Tadao, Shimazaki Ryutarō, Shiramoto Masanari et al.	腎臓内科	Calcimimetic Agent Evocalcet in Healthy Japanese Subjects: First-in-Human Phase I Study.	Clin Drug Investig. 2018 Oct;38(10):945-954.	Original article

41	Akizawa Tadao, Okumura Hiroyuki, Alexandre Ana Filipa et al.	腎臓内科	Burden of Anemia in Chronic Kidney Disease Patients in Japan: A Literature Review.	Ther Apher Dial. 2018 Oct;22(5):444-456.	Review
42	Shikida Yasuto, Mizobuchi Masahide, Inoue Takashi et al.	腎臓内科	Effect of Continuous Intravenous Calcium Loading on Fibroblast Growth Factor 23 in Normal and Uremic Rats.	Calcif Tissue Int. 2018 Oct;103(4):455-464.	Original article
43	Yamamoto Yasutaka, Iyoda Masayuki, Tachibana Shohei et al.	腎臓内科	Erlotinib attenuates the progression of chronic kidney disease in rats with remnant kidney.	Nephrol Dial Transplant. 2018 Apr 1;33(4):598-606.	Original article
44	Hattori Norimichi, Saito Bungo, Sasaki Yohei et al.	血液内科	Status of Natural Killer Cell Recovery in Day 21 Bone Marrow after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Predicts Clinical Outcome.	Biol Blood Marrow Transplant. 2018 Sep;24(9):1841-1847.	Original article
45	Baba Yuta, Saito Bungo, Shimada Shotaro et al.	血液内科	Association of red cell distribution width with clinical outcomes in myelodysplastic syndrome.	Leuk Res. 2018 Apr;67:56-59.	Original article
46	Murakami Hidetomo, Kimura Atsushi, Yasumoto Taro et al.	脳神経内科	Usefulness Differs Between the Visual Assessment and Specific Binding Ratio of (123I)-Ioflupane SPECT in Assessing Clinical Symptoms of Drug-Naive Parkinson's Disease Patients.	Front Aging Neurosci. 2018 Dec 20;10:412. (オンライン)	Original article
47	Honma Motoyasu, Masaoka Yuri, Koyama	脳神経内科	Impaired cognitive modification for estimating time duration in Parkinson's disease.	PLoS One. 2018 Dec 13;13(12):e0208956. (オンライン)	Original article
48	Shiromaru-Sugimoto Azusa, Murakami Hidetomo, Futamura	脳神経内科	The subjective perception of past, present, and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Nov 22;14:3185-3192. (オンライン)	Original article
49	Murakami Hidetomo, Yamamoto Ken, Yasumoto Taro et al.	脳神経内科	Cerebrospinal fluid 5-HIAA concentrations correlate with cardiac uptake of (123I)-MIBG during myocardial scintigraphy in drug naive Parkinson's disease.	J Neural Transm (Vienna). 2018 Oct;125(10):1511-1514.	Original article
50	Shozawa Hidenobu, Futamura Akinori, Saito Yu et al.	脳神経内科	Diagnosic Apraxia: A Unique Case of Corpus Callosal Disconnection Syndrome and Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder.	Front Neurol. 2018 Aug 10;9:653. (オンライン)	Case report
51	Shiromaru Azusa, Kinno Ryuta, Ito Naohito et al.	脳神経内科	The Cerebellar Leptomeningeal Enhancement Associated with Cryptococcal Meningitis.	Intern Med. 2019 Jan 1;58(1):149-150.	Original article
52	Watanabe Keiko, Masaoka Yuri, Kawamura Mitsuru et al.	脳神経内科	Left Posterior Orbitofrontal Cortex Is Associated With Odor-Induced Autobiographical Memory: An fMRI Study.	Front Psychol. 2018 May 11;9:687. (オンライン)	Original article
53	Shozawa Hidenobu, Oguchi Tatsunori, Tsuji Mayumi et al.	脳神経内科	Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits beta-amyloid oligomerization in vitro.	Neurosci Lett. 2018 Jun 11;677:19-25.	Original article
54	Ono Kenjiro	脳神経内科	Alzheimer's disease as oligomeropathy.	Alzheimer Int. 2018 Oct;119:57-70.	Review
55	Honma Motoyasu, Yoshiike Takuya, Ikeda	脳神経内科	COMT genotype is associated with plasticity in sense of body ownership: a pilot study.	Psychol Res. 2018 May;82(3):634-644.	Original article
56	Satoh Etsuko, Sasaki Yasutsuna, Ohkuma Ryotaro et al.	腫瘍内科	Lack of correlation between the costs of anticancer drugs and clinical benefits in Japan.	Cancer Sci. 2018 Dec;109(12):3896-3901.	Original article
57	Hamada Kazuyuki, Sasaki Yasutsuna	腫瘍内科	Gas-filled Cavities in the Liver.	Intern Med. 2018 Aug 1;57(15):2277.	Original article
58	Himuro Naoya, Niya Yumiko, Minakata Takao et al.	呼吸器外科	Thymidine phosphorylase affects clinical outcome following surgery and mRNA expression levels of four key enzymes for 5-fluorouracil metabolism in patients with stage I and II non-small cell lung cancer.	Mol Clin Oncol. 2018 Dec;9(6):640-646.	Original article
59	Himuro Naoya, Niya Yumiko, Minakata Takao et al.	呼吸器外科	A solitary bronchial squamous cell papilloma with increased 18-fluorodeoxyglucose uptake and high serum levels of squamous cell carcinoma antigen.	J Thorac Dis. 2018 Jun;10(6):E435-E437.	Case report
60	Aoki Takeshi, Murakami Masahiko, Koizumi Tomotake et al.	消化器・一般外科	Determination of the surgical margin in laparoscopic liver resections using infrared indocyanine green fluorescence.	Langenbecks Arch Surg. 2018 Aug;403(5):671-680.	Original article
61	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Matsuda Kazuhiro et al.	消化器・一般外科	Feasibility of Precoagulation Without the Pringle Maneuver for Endoscopic Hepatectomy of Cirrhotic Liver.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Sep;30(3):409-416.	Original article
62	Liu Yan, Ide Yoshimi, Inuzuka Mayuko et al.	乳腺外科	BRCA1/BRCA2 mutations in Japanese women with ductal carcinoma in situ.	Mol Genet Genomic Med. 2019 Mar;7(3):e493.	Original article
63	Kuwayama Takashi, Nakamura Seigo, Hayashi Naoki et al.	乳腺外科	Randomized Multicenter Phase II Trial of Neoadjuvant Therapy Comparing Weekly Nab-paclitaxel Followed by FEC With Docetaxel Followed by FEC in HER2(-) Early-stage Breast Cancer.	Clin Breast Cancer. 2018 Dec;18(6):474-480.	Original article
64	Ando Shinsuke, Maruyama Kazuo, Suzuki Ryo et al.	小児外科	Non-touch, Quick Removal of an Occluding Intratracheal Balloon Using High Intensity Focused Ultrasound and Limonene Emulsion.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Sep;30(3):351-357.	Original article
65	Arai Shintaro, Mizutani Tohru, Sugiyama Tatsuya et al.	脳神経外科	Is surgical parent artery occlusion effective for intracranial aneurysms measuring over 10 mm in size? Result from long-term follow-up of size changes and outcomes.	Acta Neurochir (Wien). 2019 Jan;161(1):185-195.	Original article
66	Arai Shintaro, Ikeda Hisato, Kawano Michiaki	脳神経外科	Surgical Rescue Retrieval of a Filter Protection Device in Carotid Artery Stenting with Stent Deformation: Case Report and Literature	World Neurosurg. 2019 Feb;122:215-219.	Case report
67	Imazumi Yoichi, Mizutani Tohru, Shimizu Katsuyoshi et al.	脳神経外科	Detection rates and sites of unruptured intracranial aneurysms according to sex and age: an analysis of MR angiography-based brain examinations of 4070 healthy Japanese adults.	J Neurosurg. 2018 Apr 6;130(2):573-578.	Original article
68	Kuroda Takuma, Okano Ichiro, Sawada Takatoshi et al.	整形外科	Recurrent femoral shaft fractures in a child with gnathodiaphyseal dysplasia: a case report.	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Feb 23;20(1):92. (オンライン)	Case report
69	Ishikawa Koji, Nagai Takashi, Tsuchiya Koki et al.	整形外科	High bone turnover status as a risk factor in symptomatic hypocalcemia following denosumab treatment in a male patient with	Clin Interv Aging. 2018 Oct 8;13:1929-1934. (オンライン)	Case report
70	Toyoshima Yoichi, Maeda Toshio, Kijima Takeshi et al.	整形外科	Therapeutic failure and eventual solution for skin necrosis and exposed tendon of the dorsum of the foot: A case report.	Clin Case Rep. 2018 Jul 1;6(8):1600-1603. (オンライン)	Case report
71	Ishikawa Koji, Toyone Tomoaki, Shirahata Toshiyuki et al.	整形外科	A Novel Method for the Prediction of the Pedicle Screw Stability: Regional Bone Mineral Density Around the Screw.	Clin Spine Surg. 2018 Nov;31(9):E473-E480.	Original article
72	Kanazawa Takaaki, Tomita Kazunari, Kawasaki Keiichi et al.	整形外科	Comparison of Locking and Frag-Loc Screws for Fixation of Die-Punch Fragments.	J Wrist Surg. 2018 Jul;7(3):205-210.	Original article
73	Shirako Haruna, Uda Yuko, Sasaki Akiko et al.	整形外科	Comparison of Anti-Inflammatory Analgesics for Mechanical Stress-induced Inflammation in a Human Synovial Sarcoma Cell Line.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2019 Mar;31(1):51-62.	Original article
74	Shiotani Eiji, Kuriyama Setsuro, Ishikawa Hiroki et al.	整形外科	Prevention of Suppurative Knee Arthritis after Knee Ligament Reconstructive Surgery — "Povidone-iodine Pickled" Reconstructed Ligament—	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2019 Mar;31(1):63-71.	Original article
75	Kono Tatsuki, Saiga Atsuomi, Tamagawa Keiichi et al.	形成外科	Eruption of a venous malformation through an iliac bone harvesting site after trauma.	Arch Plast Surg. 2018 Nov;45(6):588-592.	Original article
76	Utsunomiya Hiroki, Fukuya Yasuhiko, Sotozaki Norikazu et al.	形成外科	Optimal Cutoff Values for Radial Artery Diameter in Secondary Patency Rates and Risk Factors Affecting of Arteriovenous Fistulas.	Ann Vasc Surg. 2019 Jan;54:254-260.	Original article
77	Murakami Naoki, Fukuya Yasuhiko	形成外科	Surgically excising an intraoral schwannoma of the soft palate using a buccinator flap: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2018;49:17-20.	Original article
78	Morioka Daichi, Mandrano Nirina, Fujimoto Hiroki et al.	形成外科	Longitudinal Follow-up of Individuals With Cleft Lip Using Three-Dimensional Stereophotogrammetry.	J Craniofac Surg. 2018 Jul;29(5):1261-1265.	Original article
79	Kono Tatsuki, Kusano Taro, Sato Nobuhiro et al.	形成外科	Natural mastopexy repositioning based on age-related mean breast shape.	Asian J Surg. 2018 Jul;41(4):295-300.	Original article
80	Tosa Nozomi, Tosa Yasuyoshi, Yoshimoto Shinya et al.	形成外科	Incidence and Contributing Factors for Palatal Fistula after Primary Palatoplasty in a Medical Collaboration Program in Madagascar.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):271-283.	Original article
81	Onuki Mamiko, Matsumoto Koji, Tenjimbayashi Yuri et al.	産婦人科	Human papillomavirus genotype and prognosis of cervical cancer: Favorable survival of patients with HPV16-positive tumors.	Papillomavirus Res. 2018 Dec;6:41-45.	Original article
82	Nakabayashi Makoto, Kawashima Akihiro, Yasuhara Rika et al.	産婦人科	Massively parallel sequencing of cell-free DNA in plasma for detecting gynaecological tumour-associated copy number alteration.	Sci Rep. 2018 Jul 25;8(1):11205. (オンライン)	Original article
83	Oba Tomohiro, Koyano Maya, Hasegawa Junichi et al.	産婦人科	The inferior vena cava diameter is a useful ultrasound finding for predicting postpartum blood loss.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Apr 18;1-4.	Original article

84	Hirose Yusuke, Onuki Mamiko, Tenjimbayashi Yuri et al.	産婦人科	Within-Host Variations of Human Papillomavirus Reveal APOBEC Signature Mutagenesis in the Viral Genome.	J Virol. 2018 Jun 15;92(12). pii: JVI00017-18.	Original article
85	Nakamura Masamitsu, Umehara Nagayoshi, Ishii Keisuke et al.	産婦人科	A poor long-term neurological prognosis is associated with abnormal cord insertion in severe growth-restricted fetuses.	J Perinat Med. 2018 Nov 27;46(9):1040-1047.	Original article
86	Shimada Kanane, Matsumoto Koji, Mimura Takashi et al.	産婦人科	Ultrasound-based logistic regression model LR2 versus magnetic resonance imaging for discriminating between benign and malignant adnexal masses: a prospective study.	Int J Clin Oncol. 2018 Jun;23(3):514-521.	Original article
87	Okawada Hideaki, Saito Yuta, Iwabuchi Shigehiro	眼科	Relationship between vascular endothelial growth factor and macular edema in retinal vein branch obstruction.	Clin Ophthalmol. 2018 Aug 7;12:1379-1382. (オンライン)	Original article
88	Gomi Yurika, Nishimura Yuki, Kurata Norimitsu et Tashiro Yasuya,	皮膚科	Inhibitory Effect of Polypodium Leucotomos Extract on Cytochrome P450 3A-mediated Midazolam Metabolism.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2019 Mar;31(1):29-39.	Original article
89	Azukizawa Hiroaki, Asada Nakasato Takehiko,	皮膚科	Drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms due to lamotrigine differs from	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):226-233.	Original article
90	Hiramatsu Aya, Matsui Yuki et al.	泌尿器科	Systematic review and two new cases of primary upper urinary tract neuroendocrine carcinomas.	Cancer Treat Res Commun. 2018;17:23-30.	Review
91	Nogaki Taketoshi, Keskin Nevra, Azuma Takahiro et	耳鼻咽喉科	Quantitative assessment of vestibular otopathology in granulomatosis with polyangiitis: A temporal bone study.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2018 Nov 5;3(6):473-477. (オンライン)	Original article
92	Furukawa Suguru, Asano Kazuhito, Kobayashi Hitome et al.	耳鼻咽喉科	Suppressive Activity of Adiponectin on the Development of Allergic Rhinitis in Mice.	In Vivo. 2019 Jan-Feb;33(1):93-98.	Original article
93	Kimura Yurika, Kishimoto Seiji, Sumi Takuro et al.	耳鼻咽喉科	Improving the Quality of Life of Patients With Severe Dysphagia by Surgically Closing the Larynx.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2019 Feb;128(2):96-103.	Original article
94	Suzaki Isao, Kimura Yurika, Tanaka Akihiko et Nagahara Keiko, Hachiya Rumi, Tada Hayato et al.	耳鼻咽喉科	Successful treatment of eosinophilic otitis media associated with severe bronchial asthma with an anti-IL-5 monoclonal antibody.	Auris Nasus Larynx. 2019 Feb;46(1):141-146.	Original article
95	Nagahara Keiko, Hachiya Rumi, Tada Hayato et al.	小児科	A Japanese case of familial hypercholesterolemia with a novel mutation in the LDLR gene.	Clin Pediatr Endocrinol. 2019 Jan;28(1):19-22.	Original article
96	Mizuno Katsumi	小児科	The first 1,000 days of life.	Pediatr Int. 2019 Jan;61(1):3.	Others
97	Kamijo Kaori, Abe Yoshifusa, Kagami Takehi Watanabe Yoshitaka,	小児科	Bacteriuria With CTX-M-8 Extended-Spectrum beta-Lactamase-Producing Escherichia coli in a Patient With Incomplete Kawasaki	Glob Pediatr Health. 2019 Jan 9;6:2333794X18821944. (オンライン)	Original article
98	Itabashi Kazuo, Taki	小児科	Body length and occipitofrontal circumference may be good indicators of neurodevelopment in very low birthweight infants - secondary	Acta Paediatr. 2018 Jun;107(6):975-980.	Original article
99	Kamijima Kunitoshi, Yasuda Moriyoshi, Yamamura Kayo et al.	精神神経科	Real-world effectiveness and safety of aripiprazole augmentation therapy in patients with major depressive disorder.	Curr Med Res Opin. 2018 Dec;34(12):2105-2112.	Original article
100	Kamijima Kunitoshi, Kimura Mahito, Kuwahara Kazuo et al.	精神神経科	Randomized, double-blind comparison of aripiprazole/sertraline combination and placebo/sertraline combination in patients with major depressive disorder.	Psychiatry and Clinical Neurosciences. 2018 Aug;72(7-8):591-601.	Original article
101	Mizobuchi Naruki, Munechika Jiro, Takeyama Nobuyuki et al.	放射線科	Three cases of intracystic papillary neoplasm of gallbladder.	Abdom Radiol (NY). 2018 Jul;43(7):1535-1539.	Original article
102	Hatano Kumi, Hirose Masanori, Ohgiva Yoshimitsu et al.	放射線科	Comparison of Magnetic Resonance Imaging Findings of Neuroendocrine and Non-neuroendocrine Ductal Carcinoma in Situ of the Breast.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2019 Mar;31(1):21-27.	Original article
103	Kobayashi Rei, Kagami Yoshikazu, Shinjo Hidenori et al.	放射線治療科	Dose-Volume Histogram Analysis in Point A-based Dose Prescription of High-dose-rate Brachytherapy for Cervical Carcinoma.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Jun;30(2):227-235.	Original article
104	Ueshima Hironobu, Inamura Rui, Otake Hiroshi	麻酔科	Blocking the femoral and lateral femoral cutaneous nerves using an iliac muscle plane block.	J Clin Anesth. 2019 Mar;53:2-3.	Letter
105	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Medial cord block after pectoral nerves block.	J Clin Anesth. 2019 Mar;53:1.	Letter
106	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Pericapsular nerve group (PENG) block is effective for dislocation of the hip joint.	J Clin Anesth. 2019 Feb;52:83.	Letter
107	Masui Kenichi, Ishigaki Sayaka, Tomita Atsuko et Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Rocuronium pharmacodynamic models for published five pharmacokinetic models: age and sex are covariates in	J Anesth. 2018 Oct;32(5):709-716.	Original article
108	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Limitations of the Erector Spinae Plane (ESP) block for radical mastectomy.	J Clin Anesth. 2018 Dec;51:97.	Letter
109	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Clinical experiences of pericapsular nerve group (PENG) block for hip surgery.	J Clin Anesth. 2018 Dec;51:60-61.	Letter
110	Ueshima Hironobu	麻酔科	Quadratus lumborum block is not effective for anterior cutaneous nerve entrapment syndrome.	J Clin Anesth. 2018 Dec;51:48.	Letter
111	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Erector spinae plane block for pain management of wide post-herpetic neuralgia.	J Clin Anesth. 2018 Dec;51:37.	Letter
112	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Continuous erector spinae plane block for pain management of an extensive burn.	Am J Emerg Med. 2018 Nov;36(11):2130.e1-2130.e2.	Original article
113	Kobayashi Reon, Kenji Shida, Taketomi Asae et Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	New mode of burst spinal cord stimulation improved mental status as well as motor function in a patient with Parkinson's disease.	Parkinsonism Relat Disord. 2018 Dec;57:82-83.	Letter
114	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Thoracic paravertebral nerve block for treating contraction of the latissimus dorsi muscle after breast cancer surgery.	J Clin Anesth. 2018 Nov;50:69.	Letter
115	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Clinical experiences with ultrasound-guided supra-inguinal fascia iliaca block: A new approach.	J Clin Anesth. 2018 Nov;50:43.	Letter
116	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Proficiency of Dams Tulip-((R)) in awake fiberoptic orotracheal intubation for difficult airway.	J Clin Anesth. 2018 Sep;49:77-78.	Letter
117	Nagane Daiki, Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Upper lobectomy of the left lung using a left retrolaminar block.	J Clin Anesth. 2018 Sep;49:74.	Letter
118	Ueshima Hironobu	麻酔科	Successful case of perioperative management with i-gel during a case of wide-awake hand surgery.	J Clin Anesth. 2018 Sep;49:73.	Letter
119	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Ultrasound and nerve stimulator guidance decreases the use of local anesthetic for 1st injection in pectoral nerve blocks.	J Clin Anesth. 2018 Aug;48:21.	Letter
120	Ueshima Hironobu	麻酔科	Pneumothorax after the erector spinae plane block.	J Clin Anesth. 2018 Aug;48:12.	Letter
121	Ueshima Hironobu	麻酔科	Erector spinae plane block for carotid endarterectomy.	J Clin Anesth. 2018 Aug;48:11.	Letter
122	Itoh Reiya, Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Successful anesthetic management of limb artery thrombectomy by posterior QL block in conjunction with FNB.	J Clin Anesth. 2018 Aug;48:4-6.	Letter
123	Yamashita-Ichimura Mari, Toyama Emiko, Sasoh Makoto et al.	麻酔科	Bladder pressure monitoring and CO2 gas-related adverse events during per-oral endoscopic myotomy.	J Clin Monit Comput. 2018 Dec;32(6):1111-1116.	Original article
124	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Transapical transcatheter aortic valve implantation performed with an erector spinae plane block.	J Clin Anesth. 2018 May;46:84.	Letter
125	Ueshima Hironobu, Otake Hiroshi	麻酔科	Blocking of multiple posterior branches of cervical nerves using an erector spinae plane block.	J Clin Anesth. 2018 May;46:44.	Letter
126	Funaki Toshitaka, Yasuhara Tsutomu, Kugawa Satoshi et al. Sunagawa Keishin,	臨床病理診断科	SCCmec typing of PVL-positive community-acquired Staphylococcus aureus (CA-MRSA) at a Japanese hospital.	Heliyon. 2019 Mar 28;5(3):e01415. (オンライン)	Original article
127	Yagoshi Michiko, Suzuki Atsuko et al.	臨床病理診断科	Cytological and molecular detection of Scedosporium apiospermum in a patient treated for a Mycobacterium avium complex infection.	Diagn Cytopathol. 2018 Jul;46(7):642-644.	Letter
128	Imai Hideyuki, Ohike Nobuyuki, Norose Tomoko et al.	臨床病理診断科	Involvement of Adrenomedullin Expression in Tumor Cells and Stroma in the Development of Diabetes in Pancreatic Cancer Patients.	The Showa University Journal of Medical Sciences. 2018 Sep;30(3):341-349.	Original article
129	Hinata Miwa, Miyazaki Kikuko, Kanazawa Natsuko et al.	病院薬剤学	Trends in descriptions of palliative care in the cancer clinical practice guidelines before and after enactment of the Cancer Control Act (2007): content analysis.	BMC Palliat Care. 2019 Jan 12;18(1):5. (オンライン)	Original article
130	Shimizu Hisanori, Suzuki Kenichi, Uchikura Takeshi et al.	病院薬剤学	Economic analysis of palonosetron versus granisetron in the standard triplet regimen for preventing chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients receiving highly emetogenic chemotherapy in Japan (TRIPLE phase III trial).	J Pharm Health Care Sci. 2018 Dec 10;4:31. (オンライン)	Original article
131	Hattori Haruka, Maeda Masayuki, Nagatomo Yasuhiro et al.	病院薬剤学	Epidemiology and risk factors for mortality in bloodstream infections: A single-center retrospective study in Japan.	Am J Infect Control. 2018 Dec;46(12):e75-e79.	Original article
132	Naito Yuika, Ishii Masakazu, Ishibashi Shimamura Hiroshi, Yamada Hiroko, Okada	病院薬剤学	Negative predictors of clinical response to amitriptyline in Japanese patients with migraine.	Neurology and Clinical Neuroscience. 2018 Sep;6(5):125-130.	Original article
133	Shimamura Hiroshi, Yamada Hiroko, Okada	薬局	A Standard Intervention Practice to Promote Appropriate Lamotrigine Therapy by Pharmacists.	Biological & Pharmaceutical Bulletin. 2018 Apr;41(4):465-469.	Original article

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容	
① 審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について	
② 審査申請のための事前準備について	
③ 審査申請に必要とされる書類について	
④ 申請書類の作成について（参照すべき指針を含む）	
⑤ 申請から審査・承認までの流れについて	
⑥ 申請から研究実施までのフローチャート	
⑦ 研究計画の経過報告及び終了報告について	
⑧ 重篤な有害事象及び不具合への対応について	
⑨ 研究計画に伴って発生した苦情の窓口について	
⑩ 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 9 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	① 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	② 有・無
・ 規定の主な内容 ①利益相反の定義 ②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 11 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究を実施するために必要な倫理指針および知識等について教育を行っている。 ①「個人情報保護法改正に伴う研究倫理指針」の改正について ②「臨床試験実施の倫理的基本事項」について ③「臨床研究実施計画書の書き方概説」について ④特定臨床研究実施について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修終了後、各科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。
とくに内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修修了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例すべての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテーションを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	248 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
相良 博典	呼吸器・アレルギー 一内科	教授	31	
板橋 家頭夫 (代行)	リウマチ・膠原病 内科	特任教授	39	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内 分泌内科	教授	30	
本田 浩一	腎臓内科	教授	27	
吉田 仁	消化器内科	教授	31	
中牧 剛	血液内科	教授	37	
新家 俊郎	循環器内科	教授 (員外)	26	
小野 賢二郎	脳神経内科	教授	21	
角田 卓也	腫瘍内科	教授	31	
板橋 家頭夫 (代行)	救急診療科 (ER)	特任教授	39	
二木 芳人	感染症内科	特任教授	42	
岡本 健一郎	緩和医療科	特任教授	39	
岩波 明	精神神経科	教授	33	
武井 秀史	呼吸器外科	教授 (員外)	26	
青木 淳	心臓血管外科	教授	34	
村上 雅彦	食道外科	教授	37	
青木 武士	消化器・一般外科	准教授	25	
中村 清吾	乳腺外科	教授	36	
渡井 有	小児外科	教授	29	
水谷 徹	脳神経外科	教授	34	
稲垣 克記	整形外科	教授	32	
笠井 史人	リハビリテーシ ョン科	准教授	28	
黒木 知明	形成外科	准教授	29	

関沢 明彦	産婦人科	教授	29
恩田 秀寿	眼科	教授	19
水野 克己	小児科	教授	31
小林 一女	耳鼻咽喉科	教授	36
末木 博彦	皮膚科	教授	38
小川 良雄	泌尿器科	教授	36
扇谷 芳光	放射線科	教授	24
伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	24
大江 克憲	麻酔科	教授（員外）	29
小谷 透	集中治療科	准教授	33
土肥 謙二	救命救急科	教授	33
瀧本 雅文	臨床病理診断科	教授	35
板橋 家頭夫（代行）	東洋医学科	特任教授	39
富田 英	小児循環器内科	特任教授	40
宮原 義典	小児心臓血管外科	准教授	20
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	36
山口 麻子	歯科・口腔外科	講師	24

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
 1. 医療機器定期講習会
 2. 新人看護師研修会
 3. 人工呼吸器実践講習会
 4. ローカル講習会
 5. 医療機器新規導入時研修会
 6. 新人看護師研修会
 7. プリセプター研修
 8. チームリーダー研修
 9. 新人教育責任者研修
 10. 2年目研修
 11. 看護師中途採用者研修
 12. ナースヘルパー研修
 13. 救命救急センター業務研修
 14. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
 15. がん医療研究会
 16. がん医療セミナー
 17. NST勉強会

- ・研修の期間・実施回数
 1. 1日・年1回+eラーニング
 2. 1日・年1回
 3. 6日・年6回
 4. 10日・年9回
 5. 1日・年29回
 6. 1日・年1回
 7. 1日・年4回
 8. 1日・年4回
 9. 1日・年2回
 10. 1日・年1回
 11. 1日・年1回
 12. 1日・年3回
 13. 1日～20日・年11回
 14. 1～2日・年2回
 15. 1日・年1回
 16. 1日・年9回
 17. 1日・年3回

- ・研修の参加人数
 1. 51名+eラーニング受講者
 2. 144名
 3. 142名

- 4. 380名
- 5. 172名
- 6. 128名
- 7. 131名
- 8. 83名
- 9. 24名
- 10. 39名
- 11. 2名
- 12. 71名
- 13. 22名
- 14. 60名
- 15. 45名
- 16. 230名
- 17. 70名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- 1. 医療安全講習会
- 2. 感染対策講習会

・研修の期間・実施回数

- 1. 7回
- 2. 6回

・研修の参加人数

- 1. 11,599人(延べ)
- 2. 10,001人(延べ)

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 板橋 家頭夫
管理担当者氏名	管理課長 佐々木 真、クオリティマネジメント課 (係長) 大川 宏、 医療課長 小川 孝行、医療経営戦略課長 高木 満

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	管理課
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
			病院日誌は年度毎に保管。 電子カルテの情報は医療情報室に申請手続きをしないと抜き出せない。 診療録 (紙カルテ・フィルム) は1患者1ファイル及び1ジャケットまたは、1診療録単位にファイリングし外来・入院・X線写真を区分して外部委託倉庫にて保管している。診療録の院外持ち出しについては禁止している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規 則 第 二 十 二 條 の 三 第 三 項 に 掲 げ る 事 項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医療課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医療課、医療経営戦略課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療経営戦略課、医療課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部、医療課
事 項	規 則 第 一 條 の 十 一 第 一 項 に 掲 げ る	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門
	から	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門
	第三号	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部
	までに掲げる事項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部門
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部門
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 板橋 家頭夫
閲覧担当者氏名	管理課長 佐々木 真、クオリティマネジメント課(係長) 大川 宏、医療課長 小川 孝行、医療経営戦略課長 高木 満
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医療課、医療経営戦略課等
閲覧の手續の概要	病院長宛の依頼文書にもとづき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡をおこない閲覧を実施する。

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 趣旨 2) 基本的な考え方 3) 安全管理の体制確保 4) 安全管理担当者の配置 5) 医療事故等の院内報告制度 6) アクシデント(医療事故)の対応 7) 職員研修の実施 8) 患者からの相談への対応 9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 10) 安全管理のためのルールブックの整備 11) 医療安全情報の非開示 12) 医療安全体制の監査 13) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容：医療事故等の防止、安全管理体制の確保 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容(すべて)： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全管理体制について 2) DNARについて 3) 活用しようポケットマニュアル 4) RRS 5) 2点確認で患者誤認を防止しよう 6) 個人情報保護について 7) 医療ガスの取り扱い注意点 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。</p> <p>医療安全管理部門としては、報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。</p> <p>そしてテーマ別分科会(月1回、1時間、多職種のセーフティマネジャーと臨床研修医からなる小グループ)でインシデント防止を目的とした運用案を立案する。運用案はMSM委員会(月1回、1時間、代表セーフティマネジャー等で構成)にて更に検討される。その結果は、医療安全管理・対策委員会に報告される。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 基本的な考え方 ◆ 病院感染防止の体制確保 (委員会・部門・ICT・ASTの設置、感染管理者・感染リンクドクター・感染リンクナースの配置) ◆ 病院感染等の院内報告制度 ◆ 病院感染等の発生時の対応 ◆ 職員教育(職員研修の実施) ◆ その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 14 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査 ◆ 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワクチンプログラムの推進、接触者検診の検討 ◆ 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告 ◆ ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告 ◆ 広域抗菌薬(抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬など)使用状況の報告 ◆ ICT調査事例や改善支援事例の報告 ◆ 講習会の開催案内 ◆ マニュアル、指針、委員会規定の見直しと改訂について検討 ◆ 厚生労働省や東京都からの法令の改訂、通知、感染症情報の共有 ◆ アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有 ◆ 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告 ◆ 手洗いキャンペーンの実施 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液培養2セット採取について 2) 結核の感染対策 3) 抗菌薬の適正使用 4) 注意が必要な微生物と感染症法と届出について 5) 広げない、作らない薬剤耐性菌 6) 接触予防策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (①・無)</p> <p>医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談をおこなう。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理に関するオリエンテーション（新規採用医師対象） 医薬品安全管理に関するオリエンテーション（新規採用看護師対象） E-ラーニング：医療用麻薬 その適正な取扱いについて（全員対象）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（○有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し実施状況を確認、問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に一度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（○有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>未承認薬は実績なし。適応外使用として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産科大量出血症例に対するフィブリノゲン製剤投与 ・ 壊疽性膿性症に対する、レクチゾール錠（ジアフェニルスルホン酸）による内服治療 ・ プロポフォール動脈内投与による言語・記録機能優位半球判定 など <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院外処方箋への検査値の印字 ・ 転倒防止の観点からフォーミュラリーの一環として催眠導入剤の病棟定数薬の変更 ・ 向精神薬の管理強化（研修医の処方チェック） ・ ハイアラート薬品のチェック方法の見直し など 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 46 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器定期講習会 ・ MRI学習プログラム ・ 新人看護師研修会 ・ 人工呼吸器実践講習会 ・ ローカル講習会 ・ 医療機器新規導入時研修会 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ メーカー推奨の定期点検 ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 ・ 人工呼吸器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 閉鎖式保育器 ・ リニアック ・ 血液照射装置 など 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ PMDA及びメーカーからの安全性情報の収集 ・ 医療機器安全NEWSの発行 ・ 医療機器安全管理責任者による定期巡視 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有 (8名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部にて毎朝行われる朝ミーティングに出席し、医薬品情報部署長・病棟薬剤師部署長・薬事部署長と情報を共有している。各種情報の整理として病棟担当者及び調製部署担当者より随時医薬品情報室に情報は集約され、整理される。医薬品情報室担当者より医薬品安全管理責任者に随時報告される。医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知及び必要な安全対策 (マスク設定やアラート表示) 等医薬品情報室に依頼する。周知に関しては、医療安全ニュース、DI ニュース、昭和医薬品集、院内メール、医療安全講習会 (e ラーニング)、MSM テーマ別分科会、MSM 委員会、医療安全管理対策委員会などで報告し、院内へ情報提供を行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬はオーダーリング入力できない仕組みのため、医師からの相談や病棟担当薬剤師からの情報により把握する。未承認等医薬品は高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等評価委員会での承認により使用可能となる。委員会では提出された医療文献 (エビデンスレベルの高いものが必要) ・ガイドライン等の資料を基に判断される。評価委員会委員会への申請を行わない場合は病棟担当薬剤師を通じ代替薬品の提案を行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④ 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：無作為抽出による診療録監査を実施して、説明と同意に関する事項を確認する。</p> <p>管理者巡視の場で報告・指導する。また、報告書を病院運営委員会に提出し周知する。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	①有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>無作為抽出による診療録監査を実施して、診療録の記載内容を確認する。</p> <p>管理者巡視の場で報告・指導する。また、報告書を病院運営委員会に提出し周知する。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	①有・無
<p>・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ 4 ）名、兼任（ 15 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 7 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 0 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備に関すること。</p> <p>(2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価に関すること。</p> <p>(3) 医療事故に関する報告窓口業務に関すること。</p> <p>(4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。</p> <p>(5) 医療事故等の原因究明及び診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認を行うとともに必要な指導を行うこと。</p> <p>(6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底業務。</p> <p>(7) 医療安全に関する連絡調整に関すること。</p> <p>(8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導に関すること。</p> <p>(9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明等の対応状況を確認し必要な指導を行うこと。</p> <p>(10) 所管する会議等の資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務に関すること。</p> <p>(11) 訴訟に関する業務(事務)</p> <p>(12) 当該事故関係医療従事者を支援すること(精神的サポート体制)</p> <p>(13) 院内の全死亡事例の監査</p> <p>(14) 情報収集窓口の管理及び対応。</p> <p>(15) 高難度新規医療技術の評価及び管理(運用については別に定める)。</p> <p>(16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理(運用については別に定める)。</p> <p>(17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資する</p>	

こと。

(18) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスを行うこと：定例会

(19) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例については症例検討会を行うこと。

(20) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 9 件）、及び許可件数（ 9 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 高難度医療技術の新規導入に関する適否等の評価及び管理
 - (2) 高難度医療技術の新規・変更申請窓口業務
 - (3) 高難度医療技術を適用した全症例の管理
 - (4) 高難度新規医療技術評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0 件）、及び許可件数（ 0 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理
 - (2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務
 - (3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理
 - (4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 593 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

原因の分析及び再発防止策を立案し、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：慶應義塾大学病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：慶應義塾大学病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

(1) インシデントやアクシデントの報告基準が報告者に委ねられているため、客観的な報告基準の導入。

→ 客観的な基準として例えば転倒・転落は足の裏以外が地面や壁に着いた場合には転倒・転落として報告するなど「転倒・転落」という項目設定だけでなく、より具体的な報告基準を決めていく。また、状況報告書の報告基準が不明確なところがあったことから、より具体的な客観基準を検討していきたい。

(2) 各部門におけるインフォームド・コンセントの責任者を明確にし制度化する。

→ インフォームド・コンセントについては医療安全管理部門におけるセーフティマネジャーのように各部門に責任者を配置するなどの制度化を検討していきたい。

(3) 医療安全に関する明確な指針と取り組みをホームページで公表する。

→ 医療安全管理部門のホームページを増設し、当院の医療安全部門の紹介だけでなく医療安全ルール、取り組み報告の周知やパートナーシップとして患者さんに協力してもらうことなどを配信できるようにする。

(4) バーコードを利用した調剤・監査等の導入。

→ 昭和大学では、関連附属病院全体の構想にて、院内物流システム(マックヒル)の導入が決定している。本システムはバーコード認証による取り揃え時の薬品認証の他に、調剤後の薬品の所在もトレース可能であり、当院でも注射剤管理を先行導入し内服剤も続けて導入の予定。バーコードの活用については、TPN や抗癌剤調製後の鑑査等にも導入が可能か検討していく予定。

(5) アンブルピッカーから正確に出てきた注射薬を他の注射薬カートに移し変えているので注射薬

カートはそのままの状態 で病棟に運ぶ運用に変更する。

→ 現在稼働中のアンプルピッカーでは施用毎の取り揃えが不十分であること、全病棟にそのまま搬送するにはトレイやカートの数が圧倒的に足りないこと、機械の耐用年数が過ぎていることなど解決すべき課題は他にもある。限られた資産での運用も考慮しつつ、抜本的な対策を今後病院全体として検討していく。

(6) PE のスクリーニングを内科の患者さんに実施する。

→ DVT 対応マニュアルが完成次第内科患者へ実施する予定である。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

(1) 電話相談及び窓口相談 (総合相談窓口)、 (2) 投書箱

相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長等院内責任者へ報告する。また、内容によっては、各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】平成 30 年 3 月 13 日～14 日

特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療安全管理責任者】平成 30 年 9 月 17 日～18 日

平成 30 年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医薬品安全管理責任者】平成 31 年 1 月 12 日

平成 30 年度医療安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会

【医療機器安全管理責任者】平成 30 年 12 月 1 日

医療機器安全管理責任者研修会 公益財団法人日本臨床工学技士会

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
(1) 医師であること (2) 心身とも健全にして人格高潔であること (3) 高度な医療を司る特定機能病院の管理・運営等に関する 識見、能力、熱意、指導力ならびに統率力を有すること (4) 医療安全に係わる十分な知識、経験、指導力ならびに 患者安全を第一に考える姿勢を有すること (5) 診療および臨床教育・研究についての識見を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 昭和大学病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の経営及び運営の方針、経営目標の設定及び管理、予算執行及び収支、 病院における教育・研究、事業計画・中長期計画 等 (管理会議、病院運営委員会) ・審議の概要の従業者への周知状況 診療科長補佐会議において報告、学内情報共有基盤 (WEB上) にて全病院に職員に周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 (無)) ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙参照			

昭和大学病院 管理会議 委員名簿

2019.09.01現在

氏名	委員長	職種	役職
三邊 武幸		医師	病院担当理事
板橋 家頭夫	○	医師	病院長
稲垣 克記		医師	附属東病院長
小林 洋一		医師	副院長
村上 雅彦		医師	副院長
相良 博典		医師	副院長
大嶽 浩司		医師	副院長
荒川 千春		看護師	看護部長
佐々木 忠徳		薬剤師	薬剤部長
田口 美保		看護師	看護次長
田口 彰彦		事務	事務部長
佐々木 真		事務	管理課長
小川 孝行		事務	医療課長
高木 満		事務	医療経営戦略課長
秋山 好司		事務	東病院管理課長
大川 宏		事務	クオリティマネジメント課 係長
谷貝 文 (書記)		事務	管理係長

昭和大学病院 病院運営委員会 委員名簿

2019.09.01現在

氏名	委員長	職種	役職
板橋 家頭夫	○	医師	病院長
稲垣 克記		医師	附属東病院長
小林 洋一		医師	副院長
村上 雅彦		医師	副院長
相良 博典		医師	副院長
大嶽 浩司		医師	副院長
新家 俊郎		医師	教授
山岸 昌一		医師	教授
本田 浩一		医師	教授
吉田 仁		医師	教授
中牧 剛		医師	教授
二木 芳人		医師	教授
小野 賢二郎		医師	教授
角田 卓也		医師	教授
三輪 裕介		医師	准教授
青木 武士		医師	准教授
青木 淳		医師	教授
武井 秀史		医師	教授
中村 清吾		医師	教授
渡井 有		医師	教授
水谷 徹		医師	教授
豊根 知明		医師	教授
笠井 史人		医師	准教授
関沢 明彦		医師	教授
松本 光司		医師	教授
水野 克己		医師	教授
富田 英		医師	教授
石野 幸三		医師	教授
宮原 義典		医師	准教授
小川 良雄		医師	教授
小林 一女		医師	教授
伊藤 芳紀		医師	教授
扇谷 芳光		医師	教授
大江 克憲		医師	教授
加藤 里絵		医師	教授
小谷 透		医師	准教授
土肥 謙二		医師	教授
瀧本 雅文		医師	教授
福地 邦彦		医師	教授
末木 博彦		医師	教授
渡辺 秀晃		医師	教授
恩田 秀寿		医師	教授
岩波 明		医師	教授
岡本 健一郎		医師	教授
高木 康		医師	教授
小林 真一		医師	教授
山村 冬彦		医師	准教授
嶋根 俊和		医師	教授
山口 麻子		歯科医師	講師
尾本 正		医師	准教授、総括総括診療科長補佐
時松 一成		医師	准教授、副総括総括診療科長補佐
荒川 千春		看護師	看護部長
佐々木 忠徳		薬剤師	薬剤部長
佐藤 久弥		診療放射線技師	放射線技術部長
家泉 桂一		臨床検査技師	臨床検査室係長
大石 竜		臨床工学技士	臨床工学技士長
菅野 丈夫		管理栄養士	栄養科長補佐
田口 彰彦		事務	事務部長
佐々木 真		事務	管理課長
小川 孝行		事務	医療課長
高木 満		事務	医療経営戦略課長
大川 宏		事務	クオリティマネジメント課係長
秋山 好司		事務	附属東病院管理課長
佐藤 駿太		事務	施設課係員
山内 直樹		事務	財務部経理課長
谷貝 文		事務	管理課係長
佐々木 玲奈		事務	管理課主査

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
昭和大学病院ホームページ

- ・ 規程の主な内容
病院長は、理事長及び担当理事から次の各号に掲げる権限の委譲を受け、病院の管理に関する業務を統括し、責任を有することが定められている。
 - (1) 経営に関する事
 - (2) 診療に関する事
 - (3) 医療安全・感染管理に関する事
 - (4) 病院の業務管理に関する事
 - (5) 病院職員の教育・研究に関する事
 - (6) 人事管理に関する事
 - (7) コンプライアンスに関する事
 - (8) その他病院の管理・運営に必要な事

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
4名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。
（医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、保険診療、職員教育研修 等）

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）（令和元年10月28日参加申込み済み）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。</p> <p>理事長または病院長に是正措置を講じるように意見する。</p> <p>監査結果をホームページで公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>ホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理または法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・(無)	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院 病院長		医療に関する学識経験者	(有)・無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
附属病院機能評価調査委員会にて定期的に附属病院の評価・指導を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会とは別に設置の病院担当理事協会にて、病院の予算執行状況や管理運営に関する重要事項について監督している。 ・ 会議体の実施状況（年 11 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年 11 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="radio"/>無） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院担当理事協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

病院担当理事協議会 委員名簿

2019.09.01現在

氏名	所属	委員長	利害関係
小出 良平	学校法人昭和大学	○	有
小口 勝司	学校法人昭和大学		有
三邊 武幸	学校法人昭和大学		有
眞田 裕	学校法人昭和大学		有
新井 一成	学校法人昭和大学		有
上條 由美	学校法人昭和大学		有
榎 宏太郎	学校法人昭和大学		有
小川 良雄	学校法人昭和大学		有
板橋 家頭夫	昭和大学病院		有
稲垣 克記	昭和大学病院附属東病院		有
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院		有
市川 博雄	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院		有
門倉 光隆	昭和大学横浜市北部病院		有
笠間 毅	昭和大学江東豊洲病院		有
岩波 明	昭和大学附属烏山病院		有
馬場 一美	昭和大学歯科病院		有
小玉 敦司	学校法人昭和大学		有
沼尻 克己	学校法人昭和大学		有
田口 彰彦	昭和大学病院		有
佐々木 真	昭和大学病院管理課		有
菅 秀彰	昭和大学病院管理課		有

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">(1) 院内の全職員に配布しているポケットマニュアル(業務中に常に携帯する)への掲載(2) eラーニング

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <ul style="list-style-type: none">・病院機能評価 財団法人日本医療機能評価機構（救急医療機能含む） ※2015年3月6日認定・臨床研修評価 NPO法人卒後臨床研修評価機構 ※2019年1月1日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>HPに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が一人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。</p>	

(様式第 8)

31 昭 大 病 発 第 23 号
令和 元 年 10 月 31 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 昭 和 大
理事長 小 口 勝

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

医薬品安全管理責任者（薬剤部 野田秀裕）、医療機器安全管理責任者（臨床工学室 大石竜）いずれも下記の研修に出席済み

2019年10月27日・28日開催

公益財団法人日本医療機能評価機構「2019年度特定機能病院管理者研修」

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置